

党市議団が提出した予算要望の主な内容

資源循環型社会の構築

(党市議団の予算要望書より)

【資源循環型社会の構築にむけて】

- 「徹底的な情報公開」「誰にもわかる説明(責任)」「すべての市民の共通課題」の三原則のもとに、上田地域広域連合がすすめている資源循環型施設について、関係自治会の理解が得られるように全力で取り組むこと。
- 燃やすごみの減量化を目指し、生ごみ及び紙類の資源化を引き続き推進すること。市民団体が独自に取り組んでいる生ごみの資源化・減量化に助成すること。
- 上田地域広域連合が予算化している環境アセスメントについて、地元自治体として事業が進むように協力すること。
- 資源循環型施設の建設予定地に対する地域振興策について検討すること。

資源循環型施設検討委員会が設置されたことにより、施設建設の協議が始まりました。今後の展開が期待されます。



11月20日、市長に予算要望書を提出(上田市役所にて)

産業振興

(党市議団の予算要望書より)

【上田市を支える中小・小規模企業支援】

小規模企業振興基本法の制定(2014年6月)を踏まえ、全国の自治体で、「中小企業・小規模企業振興条例」という名称の条例が急増しています。

振興条例は、「理念条例」と呼ばれています。「理念条例」は、行政や地域の基本的な考え方、姿勢や枠組みを提示したものです。中小企業を大事にする上田市として行政、地域全体の姿勢を中長期的に明示する「(仮称)上田市中小企業・小規模企業振興条例」を制定すること。

「(仮称)上田市中小企業・小規模企業振興条例」は、商工団体が市へ要望したことで、今年は大きく動きそうです。

千曲川ワインバレー

(党市議団の予算要望書より)

【千曲川ワインバレー構想の推進】

- 道路拡張・整備など梶子ワイナリーの周辺整備を計画的にすすめること。
- 陣舞台地研究委員会とも協力して、ワイン用ぶどうのほ場拡大に最大限の協力をする事。
- 梶子ワイナリーの建設に合わせて、上田市の観光や飲食店など関連産業との連携を強化して、上田市の魅力アップにつながる工夫をすること。
- 意欲ある新規参入者への情報提供や技術支援、ほ場確保など起業支援を強化すること。

上田市初の^{まりこ}梶子ワイナリーが今秋竣工・ワインバレー構想が大きく前進する年に!

大規模太陽光発電の立地規制条例

(党市議団の予算要望書より)

【大規模な太陽光発電計画への対応】

上田市においては、「上田市太陽光発電設備の設置に関する指導要綱(平成27年10月施行)」および、「太陽光発電施設の適正導入ガイドライン(平成29年4月1日施行)」により、大規模な太陽光発電設備建設計画に対して、一定の歯止めとなっています。これまで策定した「上田市太陽光発電設備の設置に関する指導要領」および「太陽光発電施設の適正導入ガイドライン」に基づいて、法的拘束力のある条例制定すること。

市議会で、市長が意欲ある答弁をしており、条例制定も早期に進むように期待する年となります。

子育て支援、子ども貧困対策

(党市議団の予算要望書より)

【子育て支援、子ども貧困対策について】

- 上田市でも保育士不足が深刻な課題です。保育士確保、就労継続のために、子どもの発達や働く親を支える保育職場の労働条件の向上や増員をはかること。
- 国の新たな幼児教育・保育の無償化政策への対応とともに、財源が生まれることが予想されるので、他の分野には使わず上田市独自に子育て支援を充実すること。
- 子どもの貧困対策法ができて5年が経過し、長野県において平成29年度に「子どもと子育て家庭の生活実態調査」が行われました。県が行った調査をもとに、上小圏域の実態調査を市として分析して課題を整理し、具体策をすすめること。

上田市独自の子育て支援・子どもの貧困対策が前進する年に!

学校給食

(党市議団の予算要望書より)

【食育・地産地消をすすめる学校給食に】

市教育委員会は、学校給食について総合的な判断として第一、第二学校給食センターを1つに統合する案を公表しています。しかし、「一カ所にまとめることでリスクが高まる」「地産地消がすすまない」(市民アンケート)など大規模化と一カ所に集約することに強く懸念する声が上がっています。

土屋陽一市長は、「第一、第二学校給食センターを1つに統合する案」について、市教育委員会に再検討を要請しました。民意にそって、一カ所への統合計画を見直すこと。

市議会の答弁では、「市長の依頼を受けて検討」(市教委)となっていますが、今年はなんらかの方向がでそうです。